

「民間のコスト削減手法に関する研究会」（第1回）議事概要

1 日 時 平成20年6月3日（火）10:00～12:10

2 会 場 総務省 901 会議室

3 出席者

（メンバー）小西直人、清水武

（総務省行政評価局）関行政評価局長、伊藤大臣官房審議官、新井大臣官房審議官、
若生総務課長、米田評価監視官ほか

4 議 題 「国の行政機関のコスト削減の取組状況」

5 会議経過

(1)行政評価局長挨拶

(2)資料説明

(3)意見交換等

主な意見等は次のとおり。

- ・ コスト削減は細かいこともおろそかにしないことが重要
- ・ 「何が問題か」は誰でも気付くが、実行が伴っていないのが実情
- ・ 誰が執行責任者で、誰がチェックするか、責任の明確化が非常に重要
- ・ コスト削減は精神論では意味がなく、具体的な数値目標を設定して実績と比較すべき。また、「いつまでに処分するのか」など具体化しないと実効が伴わない。
- ・ 民間では「これをなくせないか」という発想が基本。従業員が「なくせない」と考えている物であっても、「本当に必要か」という発想で切り込む。
- ・ 一律カットではなく、「FROM・ザ・スクラッチ」（無から）で見直し。作成済み資料で使用されていないものはいったん止める。会議資料の枚数もいかに減らすか。民間では、カラーコピーは禁止、2アップ・両面刷りが当たり前
- ・ 購買については、「集中購買」がキーワード
- ・ 行政機関の場合、コスト削減に伴うインセンティブがキーワード。コスト削減を行っても、メリットが明らかでなければ誰もやる気にならない。

（配付資料）

① 「民間のコスト削減手法に関する研究会」開催要領

- ② 行政効率化推進計画（平成 19 年 7 月 2 日改定。行政効率化関係省庁連絡会議）
- ③ 「政府における無駄の徹底的な排除に向けた集中点検～「ムダ・ゼロ」への取り組み」」（平成 20 年 4 月 22 日総理指示）
- ④ 府省共通事務に関する行政評価・監視結果に基づく勧告関連